

国立大学法人富山医科薬科大学の平成 17 年度（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

富山医科薬科大学は、法人化後、平成 17 年 10 月に富山大学と高岡短期大学との統合を目指す難しい状況にありながら、大学運営体制の充実と機能強化に積極的に取り組んできた。

平成 17 年度（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）においては、学長主導の企画・立案機能の充実のために配置した 6 名の学長補佐が 3 大学再編・統合に向けた検討や全学委員会の活動において中心的役割を果たしている。また、経営協議会の学外委員や地域医療機関の医師等から積極的に意見を取り入れ、大学運営に活用しており、評価できる。

附属病院では、各種経営指標の数値目標等を盛り込んだ収支改善基本方針を新たに策定し、病院長等による各診療科の現況ヒアリングや現場視察、毎月の附属病院経営企画部会議における達成状況の検証と必要な改善策の検討・実施を行い、大幅な増収をあげており、継続した取組が期待される。

また、平成 16 年度の評価結果で評価委員会が指摘した自己点検・評価の実施については、改善を行い、評価結果を活用した大学運営の改善に向けて努力していることは評価でき、今後の成果が期待される。

統合後は、これまでの蓄積をさらに発展させるとともに、医薬理工分野の融合、和漢薬の教育研究における人文系分野等との連携など統合のメリットを活かし、さらに飛躍することが強く期待される。

2 項目別評価

・業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化

運営体制の改善

教育研究組織の見直し

人事の適正化

事務等の効率化・合理化

平成 17 年度(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)の実績のうち、下記の事項が注目される。

学長主導の企画・立案機能の充実のために 6 名の学長補佐（医学部、薬学部教授各 3 名）が置かれ、富山大学及び高岡短期大学との再編・統合に向けた検討及び計画・評価委員会等の全学委員会の活動において中心的な役割を果たしている。

県内 3 大学の再編・統合後の新たな事務組織について、新大学創設準備協議会の事務組織部会において検討を重ね、各大学の連絡調整、人事関係業務の一元化、会計事務の合理化、施設関係の課の統合等の再編を行うことや、新大学発足後は組織評価を実施することについて決定している。

経営協議会における指摘に対して、地域貢献の活性化や和漢薬研究所の更なる充実を図るなど、意見を大学運営に反映させている。

監事監査における指摘に対して、附属病院の病歴室のセキュリティを改善するなど、意見を大学運営に反映させている。

附属病院において、地域医療機関との連携を推進するため、地域の医師との医療連携研修会や関連病院長との懇談会等を定期的開催するなど、外部意見を取り入れ、基幹病院や療養型病院への紹介・逆紹介の向上や関連病院への常勤医師派遣要望への対応等、意見を病院運営に活用している。

3大学再編・統合を契機とした医薬理工融合の新大学院の設置について具体的な検討を重ね、富山大学の理工学研究科、富山医科薬科大学の医学系研究科、薬学研究科を廃止し、新たな教育組織としての教育部と新たな教員組織としての研究部を設置し、大学院の教育研究体制・機能の充実・強化を図ることとしている。

各学部等において、教員の研究、教育、管理・運營業績や社会貢献等の業績を評価し、評価に基づく資源の傾斜配分を行っている。また、和漢薬研究所では、寄附金を元に研究課題を公募し、競争的に支援している。

平成17年9月より全部局において任期制を導入している。任期満了時の再任評価基準については、和漢薬研究所が策定したほか、各学部等で策定を検討している。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由)年度計画の記載28事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善

外部研究資金その他の自己収入の増加
経費の抑制
資産の運用管理の改善

平成17年度(平成17年4月1日～平成17年9月30日)の実績のうち、下記の事項が注目される。

附属病院の診療費用請求額、収入額、病床稼働率等について数値目標を盛り込んだ「平成17年度附属病院収支改善基本方針」を策定し、病院長等による各診療科の現況ヒアリングや現場視察、毎月1回開催する「附属病院経営企画部」会議における達成状況の検証と必要な改善策の検討・実施を行った結果、平成17年度上期の病院収入が目標額に対して1億5,000万円の増収、収支改善額が6,000万円と改善が進んでいる。

学内共同利用施設(生命科学先端研究センター)の民間企業による利用を可能にし、利用料金を徴収して、半年間で約173万円の自己収入を上げている。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由)年度計画の記載15事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び情報提供

評価の充実
情報公開等の推進

平成 17 年度(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)の実績のうち、下記の事項が注目される。

平成 16 年度評価結果で評価委員会が指摘した自己点検・評価等の結果の大学運営への反映については、「平成 16 年度の年度計画実施状況等を自己点検・評価し、今後の実施計画等に反映させる」という年度計画の下、全学委員会である「計画・評価委員会」等において平成 16 年度の年度計画の実施状況の評価を踏まえた改善について検討し、翌年度以降の計画に反映させるなど、改善に向けた取組が行われている。

評価に関し必要な調査・分析等を行うため、「マネジメント情報分析室」及び同室を運営するための「マネジメント情報ワーキンググループ」を組織し、教育、研究、社会サービス及び財務等に関する情報を収集し公開している。また、教員個人に係る業績等の収集、3 大学再編・統合後における共用データベースシステムについても検討を進めており、今後の取組が期待される。

附属病院では、平成 16 年度に実施した外来患者及び退院患者への満足度調査結果を基に、満足度の低かった事項及び早急に改善可能なものについて改善を図っている。

「広報室」および全学委員会である「広報委員会」が中心となり、附属施設の一般公開を実施したり、公開講座、研究成果等について各報道機関への情報提供を約 20 回行うなど、メディアを活用した地域への情報発信に積極的に取り組んでいる。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要事項

北陸地区の国立大学連合
施設・設備の整備等
安全管理

平成 17 年度(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)の実績のうち、下記の事項が注目される。

平成 17 年 10 月の富山大学、高岡短期大学との統合に向け、平成 15 年 5 月の統合合意書調印後、3 大学で構成する新大学創設準備協議会の下に新大学創設準備推進委員会、15 の部会を設置し、260 回を超える会議で新大学の在り方に関する検討を重ねるなど、全学を挙げて精力的に取り組んでいる。

施設マネジメント委員会による構内巡視を実施し、巡視結果に基づき、施設マネジメント委員会において改善事項を検討し、有効活用を図っている。

「学内共同利用施設施設利用研究員取扱規程」を改定して新たに「生命科学先端研究センター利用研究員取扱規程」を制定し、民間企業等の施設利用をより一層推進している。

附属病院において、感染予防チーム等による医療廃棄物の分別の徹底指導を図った結果、感染性廃棄物を減量化している。

5か年の「医療機械設備等整備計画」を策定し、新規及び老朽化により更新が必要な医療機器等を効率的な整備に取り組んでいる。

「危険物及び廃棄物の取扱い及び管理に関するマニュアル」の適正な運用が行われている。なお、災害、事件・事故等に関する全学的なマニュアルが策定されていないことから、早急な対応が期待される。また、危機管理に関しては、全学的・総合的な危機管理体制の確立が期待される。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由)年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

評価委員会が平成17年度(平成17年4月1日～平成17年9月30日)の外形的・客観的進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される。

「医療学入門」や「和漢医薬学入門」など、医学部、薬学部混成の少人数授業を両学部の教員の乗り入れによって実施するなど、特色ある教育に取り組んでいる。

県内大学間で大学院教育における単位互換制度を実施し、2名の学生が富山大学理工学研究科の授業を受講し単位認定されている。

保健管理センターに専任のカウンセラー(臨床心理士)を1名配置している。

過去5年間の卒業生の進路、研修先及び就職先について平成16年度に行った調査の結果を取りまとめ、就職指導担当教員と就職活動時期の学生に周知し、進路指導に活用している。

学内公募型の学長戦略的経費により、「先端的研究計画」及び「萌芽的研究計画」を6件、「人材育成、社会貢献・国際交流の実際的な研究計画」を13件支援している。採択されたプロジェクトについては成果の発表と評価を行っている。

生涯学習推進委員会において、平成16年度に行った各公開講座の受講者ニーズ等の調査の結果を踏まえて平成17年度の公開講座を企画実施するなど、地域貢献活動の改善が図られている。

産学(地域の薬業界、製薬企業、大学等)の連携組織である「フォーラム富山『創薬』」において共同研究の推進を図った結果、分科会組織である「富山オリジナルブランド医薬品開発研究会」が独自ブランドの新薬を開発し平成17年9月に厚生労働大臣の製造承認を受けている。

附属病院の経営の効率化を図るため、病院長と経営企画部による全診療科・診療部門の現況ヒアリングを実施しているほか、病院経営における顕著な貢献があった職員2名に対し病院長表彰を行うなど、経営改善に努力している。

約8万冊(平成15～17年度の累計)の書籍に対し、図書自動貸出・返却装置用のICチップ貼付作業を行い、平成18年度からICチップによる貸出業務等を本格導入することとしている。